

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: R7 年 3月 31日

事業所名 学舎 P&amp;A

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		訓練室には極力物を置かずに広さを確保している	スペース確保を今後も心掛ける。
	2 職員の配置数は適切である	○			在籍している従業員は多く、急な退職や欠勤があっても対応できるようにしている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		エレベーターの無い二階の事業所だが職員が下まで出迎え補助が必要な利用者に対応する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			社内ミーティングで従業員に定期的に周知。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			その他にも事業所内相談や家庭訪問などを実施し意見を頂いている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			今後もHPの更新は小まめに行っていく
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在はスタッフ間で協議し業務改善を行っている。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			年間計画を立て実施している。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			十分に時間を取り聞き取りを行い、情報を吸い上げる。スタッフ間で共有し精度を上げる。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			厚生労働省の様式を使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			各個人で意見を出してもらったり、事業所で立案したプログラムを実行している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			職員一同で企画を出し合っている。また過去の企画を精査し、より良い形で再度実施する事もある。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			必要に応じて調整している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		外部への体験授業や課外授業	平日は個別指導を基本としている。土曜などに集団訓練を実施している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日のミーティングや申し送りで確認している。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎日のミーティングや申し送りで確認している。
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			常に報告、相談を職場で意識してもらっている。日々、ミーティングを実施し共有している。その他個別に時間を取る事もある。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的実施している。最低でも6か月に一度はモニタリングを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			アセスメントやモニタリングの際に聞き取りし、利用者にとって必要な支援を組み込んでいる。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	普段から何気ない会話を大切にしている。(送迎時等)	基本は保護者経由だが、本人との対話で決められる事は決めていく。報告は都度行う。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		聞き取りの際に把握している。ただ主治医と連絡を取る様な問題は発生していない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		現在は事例として動きは無い。必要に応じて対応する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		今後の取り組みとなる。事案が発生すれば行っていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		電話等での情報共有はあるが研修に参加した事はない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		情報共有はあるが直接交流機会がなかった。今後は企画していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	近年参加が出来ていない	報告書等を後日に目を通して全体周知する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			家庭訪問や事業所にて意見交換や相談などを受けて支援に変えている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ペアレントトレーニング等の研修を受けて研修にて落とし込む。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明し理解して頂いている。その後変更があった場合は書面等で都度報告している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			家庭訪問や事業所にて意見交換や相談などを受けて支援に繋げている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		家庭訪問や事業所内での個別に対応している。時間は要するが内容の質は高い。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			大きなトラブルは無かった。送迎場所の急な変更や交通事情での遅延はあったが、安全面は確保出来ていた。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		HPやSNSを使用し活動報告をしている。
	35	個人情報に十分注意している	○			鍵付き書庫にて保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			行事の前日確認や書面での連絡を強化したり、メンタルケアの為の時間を設けたりしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		予定はしていたが実行に移せていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			作成し閲覧できる場所に置いている。内容の見直しも定期的を実施。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年2回ほど実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		ポスターを掲示。	研修も毎年実施している。(発生事例、無し)
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			研修も行っており、委員会も設置している。また身体拘束の事例も無かった。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			書類作成等の聞き取りの際に必須項目にしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット用のノートを作成。	毎日のミーティングにて発生後確認し今後の対応を決定している。